

わちエダより

題字 吉田蒼月

Vol.52

2022年(令和4年)
7月発行

診療情報

脊椎・脊髄疾患センター

豊富な経験に裏打ちされた確かな技術で、
脊椎脊髄疾患の悩みに応える

患者さんの長い人生を見据えて、
最適な治療を提供

脊椎・脊髄疾患センター長
庄田 基 医師

診療情報

皮膚科

治療が難しいとされていた皮膚の疾患に
新たな治療の選択肢「紫外線療法」

お知らせ

初診時選定療養費
金額改定のお知らせ

豊富な経験に裏打ちされた確かな技術で、 脊椎脊髄疾患の悩みに応える

脊椎脊髄疾患の総合的な診断と外科治療を専門的に行う部門として、2014年当院に誕生した「脊椎・脊髄疾患センター」。今年3月には累計手術件数が1,000件に達し、多くの患者さんの治療に貢献してきました。超高齢社会を迎えて脊椎脊髄疾患に悩む患者さんが増加する今、改めて脊椎・脊髄疾患センターについてご紹介します。

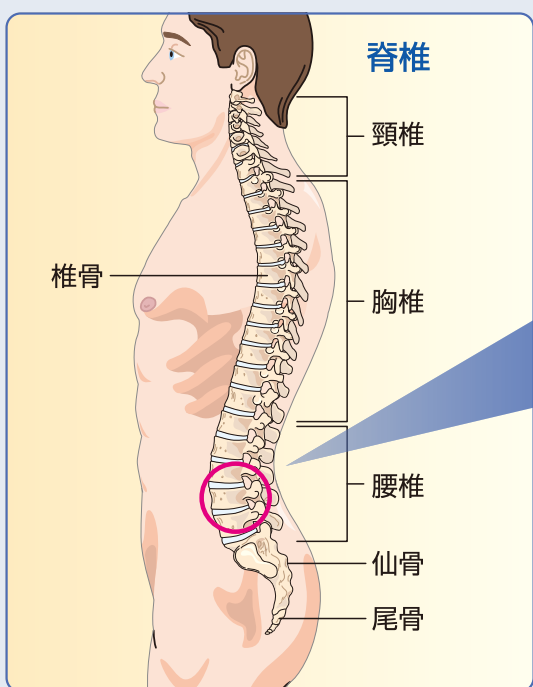
脊椎脊髄疾患の悩みに応える地域の診療拠点として

脊椎脊髄疾患とは、背骨（脊椎）とその中を通る神経（脊髄）の病気の総称です。頸椎・胸椎・腰椎など首から腰までの幅広い部位にわたり、下に示す椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などの変性疾患のほか、脊髄腫瘍や外傷などさまざまな疾患があります。

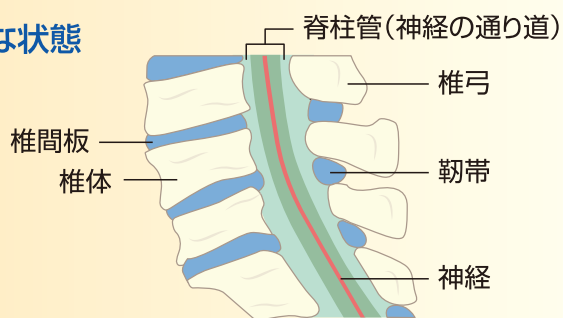
疾患によって異なりますが、主な症状は腰痛や手足の痛み・しびれなど。進行すると日常生活に支障をきたし、要介護状態や寝たきりの原因ともなります。超

高齢社会を迎え、患者さんは年々増加しており、健康寿命の延伸という観点からも治療の重要性は増しています。

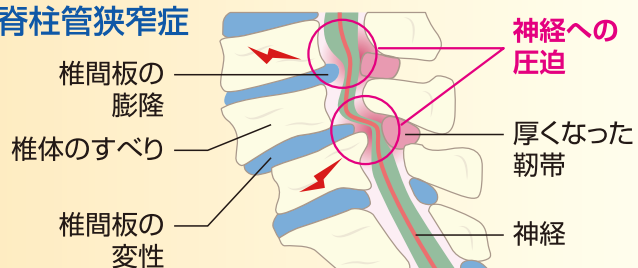
2014年、全国的に脊椎脊髄疾患を専門に扱う医療機関が少ない中で、当院は地域に先駆け「脊椎・脊髄疾患センター」を開設しました。以来、脊椎脊髄疾患を抱える患者さんの悩みに応える診療拠点として、実績を積み重ねています。



正常な状態



脊柱管狭窄症

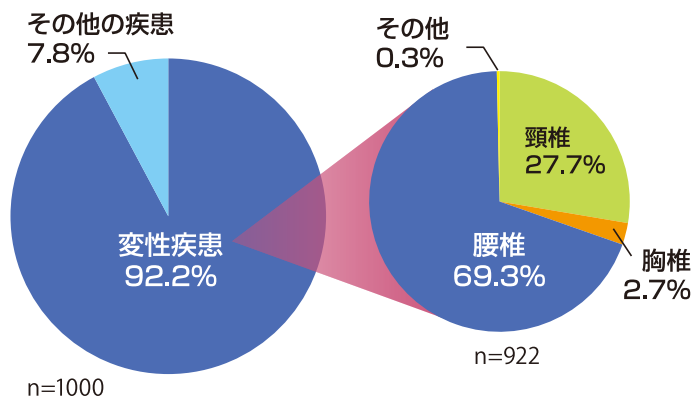


脊椎・脊髄疾患センター手術実績

1,000件

(2014年1月～2022年3月)

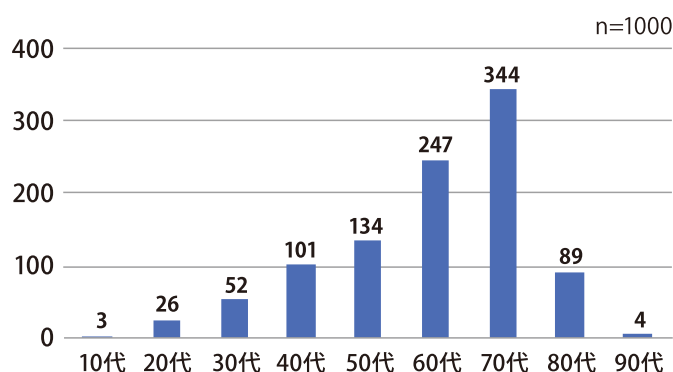
Data1 どんな疾患の手術が多いの？



脊椎脊髄の変性疾患が9割を占めています

- 加齢に伴い脊椎や椎間板が変性し、神経症状を引き起こす変性疾患の手術が92%を占めています。
- 変性疾患の内訳を部位別に見てみると、腰椎が最も多く、次いで頸椎となっており、胸椎はわずかです。

Data2 どの年代が多く手術を受けているの？



手術治療を選択するシニアが増えています

- 70代が最も多く、次いで60代、50代の順となっています。全体の4割強が70歳以上の患者さんであり、80歳以上の患者さんも約1割を占めています。
- 最近は高齢であっても、自立した生活を長く送りたいと、手術治療を選択する方が増えています。

脊椎脊髄の主な変性疾患

当センターで手術症例の多い疾患

腰椎椎間板ヘルニア

椎間板は上下の椎体をつなぐとともに、脊椎にかかる衝撃を和らげる役割をしています。通常は弾力がありますが、変性して弾力が失われたり、組織が損傷を受けて後方に飛び出すと、神経を圧迫するため、さまざまな症状が現れます。椎間板ヘルニアは腰椎で発症しやすく、腰痛のほか、太ももから足にかけて痛みやしびれが生じる坐骨神経痛を伴います。

腰部脊柱管狭窄症

脊柱管は、椎体、椎間板や靭帯などで囲まれた神経が通るトンネルです。年を重ねると椎体や椎間板は徐々に変形していきます。また靭帯が厚くなり、石灰化することもあります。こうした変化が強くなると脊柱管が狭くなり、中の神経が圧迫されます。腰部脊柱管狭窄症の主な症状は足の痛みやしびれ、だるさなど。また歩行と休憩を繰り返す「かんけつせいはいこう間歇性跛行」が見られます。

頸椎変性疾患

椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症は、頸椎でも起こり、これらが合併して生じることもあります。頸部変性疾患の主な症状は、首や肩、腕や手指などの痛みやしびれです。進行するとボタンを掛けたり、箸を使うといった細かい作業が困難になります。また、両足のしびれや歩行障害を伴うこともあります。

高度な技術と専門性で、脳から末梢神経までの神経疾患に対応

脊椎脊髄疾患は脳神経外科と整形外科にまたがる領域であり、日本ではこの2つの診療科で治療が行なわれていますが、当院の脊椎・脊髄疾患センターでは、脳神経外科医で、脊椎脊髄領域のスペシャリストが診断・治療にあたっています。

脊椎脊髄疾患は、症状が似ていても原因が異なる

ことが多く、脳神経も含めてどの部位が原因なのかを正しく診断することが重要です。そのため、脳から脊椎脊髄、末梢神経までの神経疾患全般に精通した脳神経外科医が、原因部位を的確に診断。必要に応じて整形外科医とも連携しながら、原因疾患に対する適切な治療を行なっています。

FOCUS | 脊椎脊髄の手術

安全性が高く、長期成績も良い顕微鏡手術 ————— Microsurgery

近年、手術の術式や手術器具の開発・改良が進み、複雑な病態に対してこれまで以上に安全・確実に手術が行えるようになりました。脊椎脊髄の手術には、肉眼で患部を確認しながら行う直視下手術のほか、

顕微鏡手術、内視鏡手術などの方法がありますが、当センターでは脊椎脊髄手術の大半を顕微鏡手術で行っています。



顕微鏡手術の特長

椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症の手術では、神経症状を引き起こしている部位を正確に把握し、障害を取り除く必要があります。深く複雑な部位にアプローチするため、安全・確実に処置を行うには術野の視認性が重要です。顕微鏡を用いると小さな術野でも明るく拡大され、神経や血管、靱帯などの組織を明瞭に確認できます。より精緻な処置ができるため、顕微鏡手術は合併症が少なく、術後の長期成績も良好です。

豊富な経験に裏打ちされた確かな技術

- 脊椎脊髄疾患の顕微鏡手術は高度な技術を必要としますが、当センターでは日本脊髄外科学会の指導医および脊椎脊髄外科専門医ら、豊富な治療経験をもつ医師が担当しています。
- 当センターは日本脊髄外科学会の認定訓練施設に認定されており、今後を担う専門医を育成し、地域の脊椎脊髄疾患の診療レベルを向上させるという重要な役割も担っています。

健康寿命を伸ばし、生活の質を高めるために

平均寿命の延伸により、健康寿命の重要性が叫ばれるようになりました。できる限り自立した生活を送りたいというのは、多くの方の願いです。そうした中で近年、脊椎脊髄疾患を抱える高齢者が手術を受ける機会は増えています。

高齢者と一括りに言いますが、同じ年齢でも全身状態や身体機能には個人差があります。そのため、当センターでは手術を検討するにあたり十分な検査を行い、患者さんの全身状態を正しく把握した上で、治療効果や患者さんご本人のご意向を考え合わせ、治療のご提案をしています。

最小のリスクで最大の治療効果を引き出す

脊椎脊髄疾患の手術には、手術そのもののリスクだけでなく、患者さんが抱えている基礎疾患や併存疾患、術後の合併症や筋力の低下などさまざまなリスクがあります。安全で効果の高い治療を実現するためには、こうしたリスクをいかに低減するかが鍵になります。

そこで当センターでは院内連携に力を入れ、周術期^{*}のリスク管理に努めています。たとえば高血圧や糖尿病といった基礎疾患をもつ患者さんの場合、必要に応じて内科の専門医と協力して治療にあたり、術前から手術に向けた準備を進めていきます。

また術後は、筋力の低下や合併症を防ぐために、理学療法士が早期にリハビリを開始します。

手術による患者さんの心身の負担は決して少なくありません。不安を感じることもあるかもしれません



が、当センターには豊富な治療経験があり、術前から術後まで各分野の専門職による包括的な診療を行う体制が整っています。どうぞ安心して治療を受けていただきたいと思います。

※手術の決定から入院、手術、術後回復、退院・社会復帰までの一連の期間を指します。

患者さんの長い人生を見据えて、最適な治療を

治療において当センターが大切にしていることは、患者さんにとって一番良い治療法を選択することです。術後の経過が良くても、患者さんの人生はその後10年、20年と続きます。だからこそ目先のことでなく、長い人生を見据えて最適な治療法を提案することを心がけています。

センター開設から8年。手術件数は1,000件を超え、多くの患者さんの治療に携わってきました。脊椎脊髄疾患の悩みに応える地域の診療拠点として、これからも知識・技術・経験に磨きをかけ、貢献していきたいと思っています。

脊椎・脊髄疾患センターの受診方法

地域の診療所や病院と連携し、脊椎脊髄疾患の診断・外科治療を中心にを行っています。他院受診中の方は、紹介状をお持ちください。また、現在かかりつけ医療機関がなく受診を希望される方は、事前にご連絡ください。

【問い合わせ】 ☎ 0566-97-8111 (代)

問い合わせ時間 月曜日～金曜日／ 9:00～16:00
第2・4・5土曜日／ 9:00～12:00

脊椎・脊髄疾患センターの診療は、
脳神経外科(脊椎・脊髄疾患外来)で行っています。



治療が難しいとされていた皮膚の疾患に 新たな治療の選択肢「紫外線療法」

皮膚科では4月より「紫外線療法」を開始しました。
最新の治療装置を導入し、より効果の高い治療を目指します。

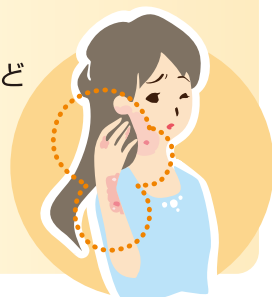
治りにくい皮膚の疾患に効果が 期待できる紫外線療法

日光浴が乾癬を良くすることは昔から知られていました。紫外線には免疫反応や細胞の増殖を抑える作用などがあり、うまく活用することでさまざまな皮膚疾患の症状改善が期待できます。

皮膚科では4月に紫外線治療装置を導入し、これまで内服薬や外用薬で効果が得にくかった難治性の皮膚疾患を抱える患者さんに対し、新たな治療の選択肢として「紫外線療法」をご提案しています。

このような症状でお困りの方に

- 内服薬や外用薬では十分な効果が得られない
- 内服薬や外用薬による治療ができない（副作用が生じているなど）
- アトピー性皮膚炎や乾癬などによるかゆみが強い



保険適応 の疾患

アトピー性皮膚炎
尋常性白斑

尋常性乾癬
慢性苔癬状皰癬疹

類乾癬
悪性リンパ腫※

掌蹠膿疱症
菌状息肉症※

※当院では治療を行っておりません。

治療効果と安全性の高い「中波紫外線」を利用

紫外線は波長により性質が異なります。治療では皮膚へのダメージが少なく、効果に優れる中波紫外線の中でも308ナノメートルの波長のみを選択的に

照射します。当院に導入した最新の治療装置は、従来機と比べ以下のような特長があります。



患者さんにもたらすメリット

- 患部にピンポイントで照射できるため、
▶ 正常な皮膚への影響が少ない
- 従来機に比べて照射率が高いため、
▶ 治療効果が高い
- ▶ 照射時間・治療期間が短い

患部に数秒～数十秒光を照射します。少し温かく感じる程度で、痛みはありません。

紫外線療法 Q&A

Q 治療による副作用はありますか？

治療直後には、赤みやヒリヒリ感、ほてり、色素沈着といった日焼け症状が起こることがありますが、通常日焼けしたときと同様に、こうした症状は次第に治まっていきます。また、紫外線というと発がん性が気になる方がいるかもしれませんが、長期にわたり照射

を繰り返した場合にはリスクが高まりますが、治療では照射回数や照射量を管理して安全確保に努めており、通常の治療の範囲内では問題になることはほぼありません。



Q 治療には時間がかかりますか？

1回あたりの照射時間は数秒～数十秒です。疾患の種類と程度により異なりますが、アトピー性皮膚炎や乾癬の場合では通常週1～3回の治療を10～20回連続して行います。その後は改善の具合により治療間隔を調整します。治療効果と期間については個人差が大きいため、医師がその都度お話しするようにしています。

Q 治療ができないケースはありますか？

光線過敏症の方、皮膚悪性腫瘍の合併や既往がある方、免疫抑制剤を使用中の方などは紫外線療法を行えません。また患者さんの皮膚の状態やタイプによっては治療をおすすめできない場合があります。当院では事前に医師が診察し、テスト照射を行って患者さんの皮膚の反応を確認してから治療を開始しています。



心配なことや不安がある場合には、遠慮せずにスタッフにお尋ねください。
また、もし副作用が起こった場合には医師が速やかに対応しますのでご安心ください。

Doctor's
Voice

内服・外用・紫外線療法の3本柱で、
より効果の高い治療を

皮膚科 伊藤 靖敏 医師



皮膚の疾患は多岐にわたり、その症状により治療法も異なります。主な治療は患部に直接薬を塗る「外用療法」、薬を飲み内側から症状を抑える「内服療法」ですが、これらの治療では症状がコントロールできず、苦しんでいらっしゃる方も少なくありません。

紫外線療法はこれまで大学病院などで行われていましたが、近年治療装置が小型化・高性能化したことで、より身近な治療法になってきています。

このたび当院にも紫外線治療装置を導入し、治療の選択肢が増えました。内服・外用の薬物療法に、

必要に応じて紫外線治療を組み合わせて、患者さんにとってより満足度の高い治療を目指します。

これまでの治療でなかなか効果が得られずお困りの方は、ぜひ当院皮膚科にご相談ください。

紫外線療法について
もっと詳しく知りたい方は、
WEBサイトをご覧ください。





耳鼻いんこう科部長
三澤 逸人(みさわ はやと)
2022年4月1日着任

耳・鼻・のどの専門の枠にとらわれず、幅広い知識と磨いてきた技術で心のこもった診療を行うことを心がけています。名古屋医療センターで培った短期入院鼻内視鏡手術の経験を生かしつつ、まずは一緒に成長しながら地域に安定した太く深い根を張っていこうと思います。老若男女を問わずお気軽にご相談ください。

【所属学会・資格】

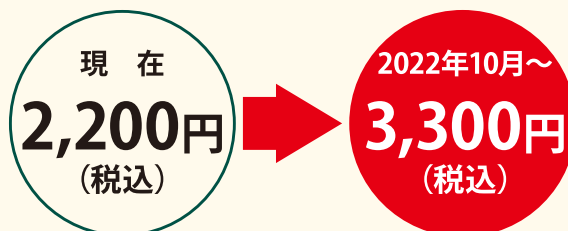
日本耳鼻咽喉科学会(専門医)
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
日本鼻科学会
日本めまい平衡医学会
日本頭頸部癌学会
補聴器相談医
舌下免疫療法修了
緩和ケア研修修了

2022年
10月から

初診時選定療養費 金額改定のお知らせ

当院では、初診時にかかりつけ医からの「紹介状」をお持ちでない方を対象に「初診時選定療養費」をご負担いただいておりますが、国の診療報酬改定に伴い、2022年10月より右記の通り金額改定いたします。

ただし、国・県・市の一部の公費負担医療制度受給者※、救急車で搬送された患者さんにはご負担の必要はありません。



【初診時選定療養費の対象となる方】

- 初診の際に、他の医療機関からの紹介状のない方
- 当院受診中の患者さんで、主治医の紹介なくご自身の意思で他の診療科を初めて受診される方

※公費負担医療制度受給者のうち、以下の方は初診時選定療養費の対象となります。

- ・後期高齢者医療の受給者
- ・乳児医療の受給者
- ・高齢受給者証の受給者
- ・母子医療の受給者

Q 初診とはどのような場合を指すのですか？

当院を初めて受診する場合の他、下記②～③の場合も初診扱いとなります。

- ①当院を初めて受診する場合
- ②以前当院を受診したことはあるが、すでに病気が治癒もしくは治療が終了し、その後新たに発生した病気のために受診をする場合
- ③継続治療を必要とする方が自己の判断で治療を中断し、3カ月以上経過した後に受診する場合

Q 初診時の選定療養費って何ですか？

他の医療機関からの紹介状なしに病床数200床以上の病院を受診した場合に、初診料の他ににかかる費用です。これは地域の診療所と大きな病院とが互いに連携を図り、それぞれの役割に応じて患者さんの症状に適した医療を提供するために、国が定めている制度です。

ご不明な点がございましたら、本館1階 総合受付までお問い合わせください。